OUKA
Osaka University Knowledge Archive

Title	2009年度　意匠学会作品賞選考報告
Author(s)	小宮, 容一
Citation	デザイン理論. 2010, 55, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53354
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

2009年度　意匠学会作品賞選考報告

意匠学会作品賞選考委員会
委員長　小　宮　容　一

去る，2009年７月11日（土）／12日（日）の両日，大阪大学豊中キャンパスにて開催された，「意匠学会第51回大会」のパネル発表を対象とした作品賞選考について報告いたします。

１．パネル発表数　５点

① 技術を展示するということ ── 民博企画「インド刺繍布のきらめき ── バシン・コレクションに見る手仕事の世界」を事例に ──／上羽陽子／国立民族学博物館
② 福井工業大学デザイン学科スタジオ／川島洋一／福井工業大学
③ こうべ芸文35周年記念美術展・図録等デザインワーク／小宮容一／芦屋大学
④ 「大きな絵本のプロジェクト」知的障がい児のための教材開発の試み／島先京一／成安造形大学
⑤ 「ヨコミチ」／下田元毅／大阪芸術大学（大学院博士後期課程）

２．選考対象作品

「意匠学会各賞の関する規定」第４条３項により，選考委員の作品を選考外とした。即ち，②川島洋一氏及び，③小宮容一氏の作品を選考外として，残る３点を選考対象とした。

３．作品賞

① 技術を展示するということ ── 民博企画「インド刺繍布のきらめき ── バシン・コレクションに見る手仕事の世界」を事例に ──／上羽陽子／国立民族学博物館

４．選考過程

１日　11：40～12：20のパネル発表に，選考委員全員が参加，聴講する。直後隣室にて選考会議を持つ，まず，「意匠学会各賞の関する規定」の改定により選考委員の作品を選考外とし，残る３点について選考することを確認する。「３点の内，優秀な作品が無い場合は当確なしとすることもある。」を確認する。「本年　対象作品数が少ないで，来年とまとめて審査してはどうか…」という外部からの意見について議論し，「１年前の作品の記憶や印象は薄らぐし，１年前の作品もう一度並べるのは無理と思われる。」「１年毎の審査が妥当であ

る。」の結論を得た。次に，対象作品３点個々について，評価を交換，討議の結果，３点の中では，上羽陽子氏の作品が，優秀とした。次に，この作品が，本年の作品賞に値するか討議した。ここで，昨年と議論した所の，「完成した所謂デザイン」「プロジェクト」「社会への提案」などを今年の審査の中で，同列に扱うことを再確認した上で，上羽氏の新しい展示方式，博物館来館者に技術体験させる新方式を評価し本年の作品賞と決定した。

５．選考評

まず，刺繍布に施される刺繍技術の特徴を，文字による解説でなく，布・糸・針を使った工程を再現した「刺繍技術解説パネル」の考案と，パネルで表裏を見ることにより技術の理解度が増すことを評価した。つぎに，博物館来館者に刺繍を実体験させ，よりその技術と社会的背景の理解を深めることができるという，新しい体験型技術展示方式を評価した。実験的取り組みの初期段階であるが，今後の発展と定着を期待したい。

６．選考委員：小宮容一，川島洋一，櫛　勝彦，谷口知弘，塚田　章，中野仁人，橋本英治，森田雅子（以上８名）